

## 6月のFPC

沖縄を除いて全国的に平年より遅い梅雨入りとなった6月。24日には第22回参議院選挙が公示され、民主党政権の信を問う熱い選挙戦が始まった。公示直前の22日には、日本記者クラブで行われた九党の党首による討論会の中継映像とともに、同時通訳サービスを提供した。また、6月は重要な外交案件をブリーフィングで取り上げた。10日には、鈴木敏郎・外務省中東アフリカ局長をお招きし、カルザイ・アフガニスタン大統領の訪日について、また、18日には鈴木庸一・同省経済局長からG8・G20サミットで討議される課題についてお話し頂いた。21日には、小此木政夫・慶應義塾大学教授に、混迷の度を増している朝鮮半島情勢について解説頂いた。先進国記者招聘事業では、米国ネットメディアの記者が来日、地球温暖化が日本の農業・食品産業に与える影響・対策を探った。

## <ブリーフィング>

### 鈴木敏郎・外務省中東アフリカ局長 「カルザイ・アフガニスタン大統領の訪日」(6月10日)

6月16～20日のカルザイ・アフガニスタン大統領の訪日を前に、鈴木敏郎・外務省中東アフリカ局長によるブリーフィングを実施。外国プレス・大使館関係者など計44名が参加した。鈴木局長は、今回で4度目となる同大統領訪日では菅総理との首脳会談が予定されており、同会談ではカルザイ政権による治安対策の進捗状況が報告されるとともに、今後の復興支援の有効な進め方について協議されると説明。また、本年が日本・アフガニスタンの外交関係樹立80周年にあたることから、両国の関係を、「支援を提供する側-受ける側」というだけのものから、文化的な交流ができるようなものへと発展させていきたいと述べた。



「文化交流できる関係に発展させたい」と語る局長

## 鈴木庸一・外務省経済局長

### 「G8・G20サミットに向けて」(6月18日)

6月下旬にカナダでG8ムスコカ・サミット、G20トロント・サミットが開催されるのを機に、外務省の鈴木庸一・経済局長をお招きした。加、中、仏、韓、露、西、英、米の8カ国の報道機関記者等計42名が参加した。鈴木局長は、日本および世界が直面している課題は、1)世界経済の安定的回復、2)平和と安全、3)開発の3つであり、第一の課題は主としてG20で、残る2つは専らG8で討議することになると述べた。より具体的には、G20の課題として「世界経済の強固で持続可能かつ均衡ある成長への移行」「金融システムの修復および改革の加速」「国際金融機関改革」などを、またG8の課題として「世界の平和と安全」「ミレニアム開発目標（特に母子保健）達成等の開発の問題」「アフリカの開発や平和・安全への貢献の継続」を挙げた。質疑応答では、日本の財政再建や、日本が今回のG20サミットに期待することなどに話が及んだ。



来るG8・G20両サミットについて語る鈴木局長

## 小此木政夫・慶應義塾大学法学部教授

### 「緊張高まる朝鮮半島情勢」(6月21日)

朝鮮半島情勢が緊迫の度を増す中、小此木政夫・慶應義塾大学法学部教授によるブリーフィングを開催。小此木教授は、今年3月に発生した韓国哨戒艦の沈没事件について、「北朝鮮はあくまで戦争は回避するという前提のもとで軍事的な挑発を行ったのであり、テロ行為のようなもの。戦争に至るとは考えていない」と分析した。更に、韓国政府はG20がソウルで開催される11月までに平和な国際環境を必要としていることから、北朝鮮は今後、事態打開のための突破口として韓国を利用するだろうと指摘。北朝鮮が小規模な軍事挑発を繰り返しながら韓国に譲歩を強要する可能性と、南北双方が徐々に緊張緩和措置を取って戦略的妥協を模索する可能性の2つのシナリオを提示した。

参加者は、外国プレス16名（9カ国・地域）、大使館関係者16名を含む計38名。



記者からの質問に答える小此木教授

### 「九党党首に聞く」の生中継・同時通訳サービス提供(6月22日)

参院選公示を前に、日本記者クラブにおいて、民主党、自民党、公明党、共産党、社民党、国民新党、みんなの党、新党改革、たちあがれ日本の各党首による討論会「九党党首に聞く」が行われ、政権公約等につき論戦が繰り広げられた。FPCでは、会見室にて、同討論会の映像とともに、英語による同時通訳サービスを提供。欧米メディアの記者のほか、在京大使館員を含む計40名が同サービスを利用した。

#### <招待・研修>

### Ms. Corie Brown(米国 Zester Daily: 地球温暖化が日本の農業・食品産業に与える影響・対策)(6月7~17日)

2008年に「A Scorching Future: Global warming is altering the world wine map (焼けるような将来:世界のワイン地図を塗り替える地球温暖化)」と題した記事でMissouri Lifestyle Journalism Awardを受賞、翌年には食の安全、食に関する時事問題等も取り上げるウェブサイト「Zester Daily」を立ち上げたブラウン記者。現在は、「地球温暖化がワイン生産に与える影響」をテーマとする著書を執筆中で、その関連取材で来日した。

農水省、および日本のワイン一大生産地である山梨県、長野県の研究機関にて、地球温暖化が農産物や果樹に及ぼす影響や、国・自治体の対応策を取材。また、問題の実情により迫るべく、実際にワイン生産地を訪問、葡萄生産者や醸造者から話を聞いた。同記者は、今後約2年をかけて上記著書を書き上げる予定。そのうちの一章では、今回の取材内容を基に、日本の状況を取り上げる。

#### <個別取材協力>

### 李 鐘洛・東京支局長(韓国 ソウル新聞)(5月20日)

2007年に発生した新潟中越沖地震の被災地を訪れた李支局長。柏崎駅前の復興公営住宅の集会所で、柏崎市社会福祉協議会の大塚真光子・地域福祉係長に、地震発生直後の状況、避難所生活期の体験、復興に向けた活動、被災者が抱える問題等について聞いたほか、復興公営住宅の入居者にもインタビューした。取材内容は、6月2日付のソウル新聞に掲載された。

### Thomas Hoey Davidsen記者(デンマーク Weekendavisen紙 東アジア特派員)(5月27日)

歌舞伎座の建て替えが始まって間もないこの時期に、日本の伝統芸能である歌舞伎の魅力デンマークの読

者に伝えたいと、新橋演舞場を訪れたDavidsen記者。父・中村雀右衛門(人間国宝)の芸の継承者であり、次代の歌舞伎を担う女方的中村芝雀氏にインタビューし、歌舞伎役者になった経緯、女形を演じることの難しさ、海外の人に伝えたい歌舞伎の魅力などについて熱心に聞いた。

### Anthony Fong記者(香港 TVB News)(5月28日~6月2日)

香港最大手のテレビ局TVBのFong記者は、「訪日中国人観光客に対するビザ発給要件の緩和」や「日中関係」など、5つのテーマについて取材。FPCがアレンジした観光庁(勝又正秀・外客誘致室長)および外務省(垂秀夫・中国・モンゴル課長)でのインタビューの様子は、同局より香港並びに中国本土で放送された。

### <日本新聞協会との合同アジア・プレス調査ミッション>(6月7~12日)

アジアにおけるプレスの対日認識・関心を調査する目的で、寺田理事長が台湾、フィリピン、香港に出張し、報道関係機関を訪問した。日本新聞協会からは宇治敏彦・国際委員長(中日新聞相談役論説担当)が参加。台湾ではメディア6社を訪問、新聞各社のiPad等新メディアへのいち早い取組みを視察した。フィリピンでは報道機関のほか、大学のジャーナリズム学科を訪問し、ジャーナリスト育成の状況を視察。香港では新聞社を訪れたほか、現地記者協会幹部と意見交換した。



台湾のテレビ局訪問時の様子



フィリピンの大学での学生との懇談の様子

#### お知らせ:アジア・プレス調査ミッション報告書のご送付について

FPCでは、上記アジア・プレス調査ミッションの訪問先である台湾、フィリピン、香港の最新の現地メディア事情をとりまとめた報告書を、後日賛助会員の皆様にお送りする予定です。

お手元に届きましたら、ぜひ一読下さい!